

## 道内イベントにおける環境配慮事例

- 事例 1 総合的な環境配慮 【環境広場さっぽろ 2007】
- 事例 2 3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進 【澄川秋祭り】
- 事例 3 植樹によるカーボン・オフセット 【次世代型バイオマス活用フォーラム】
- 事例 4 植樹によるカーボン・オフセット 【カーボン・オフセット型ツアー】
- 事例 5 グリーン電力の活用 【札幌ドームイルミネーション】

## 事例1 総合的な環境配慮 【環境広場さっぽろ2007】

### (1) 「環境広場さっぽろ2007」の概要

「環境広場さっぽろ」は、環境広場さっぽろ実行委員会の主催により1998年から開催されている大規模環境展示会で、2007年度は8月3日(金)～8月5日(日)の3日間、アクセスサッポロで開催されました。

会場には、4つのゾーン「新・省エネルギーゾーン」「エコライフゾーン」「環境技術ゾーン」「リサイクルゾーン」や、大学やNPOの環境への取組を紹介する「環境横丁」、環境に配慮した食を楽しむ「エコレストコーナー」などが設置され、道内外から109の企業・団体による展示が行われたほか、ビジネスセミナーやさまざまなステージイベントも行われ、開催期間中に約2万7千人の来場がありました。



ポスター



### (2) 主な環境配慮の取組

#### 「環境配慮プログラムガイド」の作成・配布

このプログラムは、展示・装飾における廃棄物削減のためのプログラムで、「展示造型・装飾構成要素別ガイドライン」と「環境配慮チェックシート」で構成されています。環境広場さっぽろの出展者には、この「環境配慮プログラムガイド」を配布し、展示会のゼロエミッション化に向けた4Rの取組(リフューズ:造作・装飾の計画の際、ごみになるものをできるだけ除く、リデュース:造作・装飾の簡易・小型化やパッケージブースの利用、リユース:リースやレンタルのほか、再使用、再利用の促進、リサイクル:マテリアルリサイクルの推進)への協力を呼びかけています。

#### 【展示造型・装飾構成要素別ガイドライン】

一般的な展示会ブース造型装飾構成要素を5項目に分けてガイドラインを作成。

トラス/パラペット/ポーター/柱

壁面

床面

展示台

表示(社名、コーナー名等)

#### 【環境配慮チェックシート】

出展者が、ガイドラインに沿った5造型装飾構成要素ごとでの環境配慮策を順次チェックできるチェックシート。

### 環境に配慮した印刷物の作成

開催前に作成したポスター、チラシ、出展ガイドや、開催後に作成した開催報告書の印刷にあたっては、再生紙及び大豆油インキを使用しました。



チラシ

### 低公害型シャトルバスの運行

最寄り駅(地下鉄大谷地駅)から会場(アクセスサッポロ)までは、天然ガスを燃料とする無料シャトルバスを運行し、公共交通機関でのアクセスを推進しました。



シャトルバス

### リユース食器と生分解性プラスチック容器を利用した食品の提供

「エコレストコーナー」では、出展した食品製造会社が、何度でも洗って使用できるリユース食器とポリ乳酸を原料として製造した生分解性のプラスチック容器を利用して、飲食時での環境負荷の低減に取り組みました。



「エコレストコーナー」の様子

【出典】環境広場さっぽろ 2007 開催報告書(環境広場さっぽろ実行委員会事務局)

環境広場さっぽろ 環境配慮プログラムガイド(環境広場さっぽろ実行委員会事務局)

## 事例2 3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進 【澄川秋祭り】

### （1）「澄川秋祭り」の概要

「澄川秋祭り」は、現在、町内会などで組織される澄川地区連合会によって毎年実施されており、2007年度は9月8日（土）すみかわ地区センター、澄川図書館周辺道路及び清澄公園を会場として開催されました。

会場では、出店（5店）による各種飲食物の販売が行われたほか、小学校スクールバンド演奏などのストリートパフォーマンスや餅つき、澄川産直野菜等の販売、フリーマーケットなども開催され、約700～800人の来場がありました。

### （2）主な環境配慮の取組

澄川秋祭りでの環境配慮の取組は、澄川地区連合会と環境NGO ezorockの連携により進められており、2007年度で2度目の取組となっています。

#### ごみ分別ナビゲート

ごみが多く出る飲食エリアの近くに、燃やせるごみ、燃やせないごみ、プラスチック、割り箸、ビン・缶・ペットボトル、生ごみ・残り汁の6分別のごみ箱を設置しました（会場内のごみ箱はこの1か所のみ）。また、来場者がごみ箱までごみを持ってくるように、「ごみ分別サイン」を会場にあるすべての飲食用テーブルに貼りました。



ごみ箱の様子



ごみ分別の呼びかけ



ごみ分別サイン

#### リユース食器、ビールカップのデポジット制の導入

出展している飲食店に、何度でも洗って使用できるリユース食器の利用を呼びかけました。（販売品目によって使用がむずかしいケースがあったため、一部の店舗で実施）

また、デポジット制によるビールカップの貸し出し（1カップ100円でカップを借り、カップ返却時に100円が返却される）をビール販売所横で行いました。

使用済みの食器とビールカップは移動食器洗浄車アラエール号で洗浄し、再び利用しました。



飲食出展者への貸し出し



カップ貸し出しブース



カップ返却ブース

【出典】地域のお祭りを若者がエコにします事業報告書（平成20年3月 環境NGO ezorock）

## 参 考

### リユース食器

何度も繰り返し洗って使用できる（リユースできる）食器で、使い捨ての紙コップやプラスチック容器の代わりに使います。これを使うと洗いの手間がかかりますが、紙などでできた使い捨て容器を削減することができます。デポジット制と組み合わせて活用する方法もあります。

### デポジット制

製品価格に一定金額の「デポジット（預託金）」を上乗せして販売し、製品や容器が使用後に返却された時にデポジットを返却することにより、製品や容器の回収を促進する制度をいいます。

ワンコインをデポジット料金とすると、お金の受け渡しの手間を少なくすることができます。例えば、ジュースなど内容物を 100 円、容器を 100 円として、容器を戻してもらったときに 100 円をお返しする方法などが考えられます。

### リユース食器を使うには

札幌市リサイクルプラザでは、移動食器洗浄車「アラエール号」の貸し出しを行っています。アラエール号は、食器洗浄機と食器、流し台を搭載した 1.5 トンの小型トラックで、普通免許で運転でき、食器洗浄操作も簡単なので誰でも扱うことができます。詳細はリサイクルプラザまでお問い合わせください。



「アラエール号」活用風景



リユース食器

【お申し込み・お問い合わせ】札幌市リサイクルプラザ宮の沢 TEL 011-671-4153

（株）北海道ジェイ・アール・エージェンシーでは、お皿やどんぶり、カップなど数種類のリユース食器の貸し出しを行っています。詳細については、下記にお問い合わせください。

【お申し込み・お問い合わせ】（株）北海道ジェイ・アール・エージェンシー  
営業 1 部営業 2 グループ TEL 011-751-7920

【出典】イベントをエコ化するためのガイドライン（札幌市）

札幌市リサイクルプラザ Web サイト（<http://www.sapporo530.or.jp/>）

EIC ネット（<http://www.eic.or.jp/>）

## 事例3 植樹によるカーボン・オフセット 【次世代型バイオマス活用フォーラム】

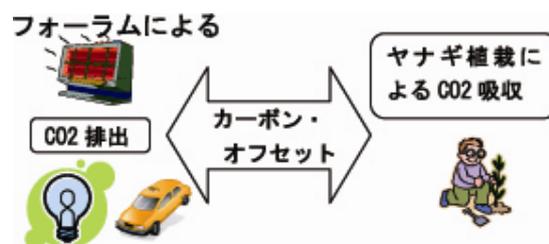
### (1) 「次世代型バイオマス活用フォーラム」の概要

「次世代型バイオマス活用フォーラム～早生樹『ヤナギ』による地域活性化に向けて～」は、2008年3月25日(火) 下川町バスターミナル合同センター大ホールにて、下川町の主催により開催されました。このフォーラムでは、「バイオマス」と次世代型バイオマスとして期待される「ヤナギ」についての講演や、「ヤナギ」の試験栽培や新用途開発に係わる事業の活動報告が行われ、町議会、商工会、林業・建設業界、自治体関係者など約100名の来場がありました。

### (2) 主な環境配慮の取組

このフォーラムでのエネルギー消費(会場の暖房や照明など)により排出される二酸化炭素約0.5トン(二酸化炭素重量)について、下川町が行うヤナギの植栽によりカーボン・オフセットすることとしました。

その植栽にかかる経費の一部については、フォーラムの協賛企業である民間企業からの支援を受けています。



【出典】次世代型バイオマス活用フォーラムリーフレット(下川町)

名寄新聞 2008年3月26日地域ニュース (<http://www.nayoro-np.com/>)

## 参 考

### カーボン・オフセット

カーボンオフセットとは、市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等の社会の構成員が、自らの温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量について、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等(これを「クレジット」といいます。)を購入すること又は他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施すること等により、その排出量の全部又は一部を埋め合わせることをいいます。

イギリスを始め EU、アメリカ、オーストラリア等での取組が活発であり、日本でも民間での取組が始まりつつあります。カーボン・オフセットは、オフセットを行う主体自らが温室効果ガスの排出削減に努めるという点で、これまで排出量が増加傾向にある業務、家庭部門等の取組を促進することが期待されています。

カーボン・オフセットの主な類型としては、市場を通じて広く第三者に流通するクレジットを活用したものと、市場を通さずに特定者間のみで実施されるものの二つに大別されます。カーボン・オフセットの取組が広がっていくためには、カーボン・オフセットに対する信頼性を構築することが重要であることから、排出削減・吸収活動に伴う排出削減・吸収量等について、第三者機関による認定を受けていることが望ましいとされています。

【出典】我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について(指針)

(2008年2月7日 環境省)

## 事例4 植樹によるカーボン・オフセット 【カーボン・オフセット型ツアー】

### (1)「カーボン・オフセット型ツアー」の概要

有限責任中間法人シーニックバイウェイ支援センターでは、地球温暖化対策として二酸化炭素排出量の削減が求められるなか、運輸部門での排出量が全体の約2割を占めることを踏まえ、訪れた地域で植樹を行うことにより観光ツアーで排出した二酸化炭素をオフセットする「カーボン・オフセット型ツアー」を道内で初めて企画しました。2007年7月に開催された第1回ツアー「地球環境を考えながら日本海の食と景観を楽しむ旅」を皮切りに、2007年度中に計7回、「カーボン・オフセット型ツアー」が実施されました。なお、植樹分の費用と管理費は、ツアー料金に上乗せされています。

### (2)「カーボン・オフセット型ツアー」の例

ツアー名

ハイブリッドカー プリウス で行く

2008 サミット開催地「洞爺湖」をエコドライブで楽しむ旅

～あなたのエコな思いが、“地球”と“人”の絆を強くします！～

日程 2007年10月27日～28日 1泊2日

スケジュール

<1日目> 札幌 = [国道230号線などを利用] = JR洞爺駅前(昼食) = 『カーボン・オフセット体験』・エコミュージアム見学 = バリアフリーの日帰り温泉入浴 = 洞爺湖畔のホテル(泊)

<2日目> ホテル発 = [シーニックバイウェイ北海道の「支笏洞爺ニセコルート」を自由ドライブ] = 札幌(解散)

参加者数 17人(車6台)

走行距離、二酸化炭素排出量 約300km×車6台=約158kg(二酸化炭素重量)

カーボン・オフセット体験場所 壮瞥町町有林

植樹樹種、本数 4年物・約30cmのトドマツ60本



植樹の風景



その他、旅の特徴

- ・ エコツーリングの具体的な方法を記載した資料を参加者に事前配布し、燃費コンテストを実施。優秀者には、景品プレゼント。
- ・ ホテルの夕食は、地場産品を使った「地産地消メニュー」。

【出典】シーニックバイウェイ北海道 「カーボン・オフセット型ツアー」のご案内

([http://www.scenicbyway.jp/information2007/carbonoffset\\_tour.html](http://www.scenicbyway.jp/information2007/carbonoffset_tour.html))

## 事例5 グリーン電力の活用 【札幌ドームイルミネーション】

### (1)「札幌ドームイルミネーション」の概要

札幌ドームは、最大約5万4千人が収容できる多目的ドーム施設で、プロ野球、サッカー、コンサートなどさまざまなイベントが開催されています。毎年冬季にはイルミネーションが実施されており、2007年度は、2007年11月28日から2008年2月29日まで（休館日を除く）の16時～21時の間、展望台、北ゲート側「タウン」、ウェルカムタワーなどが約3万5千個のLED電球でライトアップされました。



イルミネーションの様子

### (2) 主な環境配慮の取組

札幌ドームを運営する(株)札幌ドームでは、グリーン電力証書(6,000kWh)を取得し、2007年度のイルミネーション点灯の電力の全てをグリーン電力でまかないました。このグリーン電力は、市民の出資によって石狩市に建設された市民風車「かぜるちゃん」により発電されたものです。



かぜるちゃん

【資料提供】(株)札幌ドーム (<http://www.sapporo-dome.co.jp/kankyo/event.html>)  
北海道グリーンファンド (<http://www.h-greenfund.jp/>)

## 参 考

### グリーン電力

グリーン電力とは、風力、太陽、バイオマス、水力など温室効果ガスや有害ガスの排出が少なく、環境への負荷が小さい自然エネルギーにより発電された電気、またはそのような電気を選んで購入できるプログラムをいいます。グリーン電力基金やグリーン電力証書取引などさまざまなプログラムがあります。

### グリーン電力証書

グリーン電力には、「エネルギーとしての価値」の他に、二酸化炭素排出量の削減など、環境への負荷を低減する付加価値(これを「環境付加価値」といいます。)を持っています。この環境付加価値を「証書」という形にして、個人や企業などが省エネルギーや環境対策の一環として取り引きできるようにした仕組みが「グリーン電力証書」です。

グリーン電力証書には、自然エネルギーにより発電された電力量が記載されています。この証書を取得している個人や企業は、消費した電力量のうち、証書に記載されている発電量と同量の電力を、自然エネルギーによって発電された電力とみなすことができます。

【出典】みんなのグリーン電力 (<http://www.greenpower.jp/>)

EIC ネット (<http://www.eic.or.jp/>)

日本自然エネルギー株式会社 ([http://www.natural-e.co.jp/green/how\\_about.html](http://www.natural-e.co.jp/green/how_about.html))